

島有事への備え

現在の朝鮮半島情勢をどう見ますか。

「核兵器や弾道ミサイルの開発を進める北朝鮮に、米軍は開発をこれ以上進めれば軍事力を直接行使するぞと威嚇している。これに対し、北朝鮮は米本土に届く大陸間弾道ミサイル(ICBM)を誇示するなど、なお強気だ」

「米朝間では過去、北朝鮮が核兵器やミサイル開発を断念する見返りに、関係国がエネルギーや食料を支援するとの合意ができたが、北朝鮮は結局、開発をやめなかった。米軍はもうだまされてはならないと考えており、緊張を打開する策が見えない」

北朝鮮の15日の軍事パレードからはどのようなメッセージを感じましたか。

朝鮮半島情勢が緊迫の度合いを強めている。北朝鮮は弾道ミサイルの発射実験など挑発を繰り返して、6度目の核実験も準備していると思われる。一方のトランプ米政権は、外交や制裁強化に加え、軍事力の行使も否定しない。半島有事がもし現実となれば、事態はどう展開するのか。防衛省で情報分析官を務めた軍事アナリストの西村金一氏と、米朝関係に詳しい道下徳成・政策研究大学院大学教授に聞いた。

武力衝突に3シナリオ

にしむら・きんいち 防衛省で長年にわたり北朝鮮や中国の軍事動向を分析。著書に「詳解 北朝鮮の実態」など。65歳。



軍事アナリスト 西村 金一氏

「北朝鮮が見せつけたかったのは初公開の大型弾道ミサイルだ。ただし疑問も多い。例えば米国の一部に届く可能性があるKN8というタイプは2012年に初登場したが、5年たった現在まで一度も実験していない。今回初登

場の大型弾道ミサイルも同様だ。北朝鮮が見せつけたこと、発言していることをそのまま信じておこなう、軍事的な合理性を考慮し、客観的・総合的に分析して、事実を解明していくことが重要だ」

「難しいだろう。カギを握るとみられてきた中国は従来、国連の制裁に協力すると言いつつ、北朝鮮の鉱物を購入したり石油を継続的に供給して金正恩(キム・ジョンウン)体制を支えてきた。北朝

での打開は可能でしょうか。 「難いだろう。カギを握るとみられてきた中国は従来、国連の制裁に協力すると言いつつ、北朝鮮の鉱物を購入したり石油を継続的に供給して金正恩(キム・ジョンウン)体制を支えてきた。北朝

鮮も国際合意をほごにして核開発を続けてきた。あの体制に対しては軍事的な力を見せつつ譲歩を迫るしかない」

「第3に『米軍による限定攻撃シナリオ』もありうる。新たな核実験や米朝に届く弾道ミサイルの発射実験の兆候が高まったとして、米軍が北朝鮮の関連施設を巡航ミサイルで限定攻撃する展開だ。北朝鮮領土には侵攻しない姿勢を示し、全面戦争化を回避しようというもののだが、北朝鮮の反撃が予想される」



北朝鮮は軍事パレードで弾道ミサイルの存在を誇示した(15日)＝共同



北朝鮮は軍事パレードで弾道ミサイルの存在を誇示した(15日)＝共同

朝鮮半島有事の際の日本の被害を巡り、西村氏が化学兵器を搭載したミサイルの脅威を指摘したのに対し、道下氏は日本への直接攻撃の可能性は小さいと分析した。一方、米

聞き手から

朝鮮半島有事で起こりうる展開例
・北朝鮮が新たな核実験や大陸間弾道ミサイル(ICBM)発射
・米軍が北朝鮮軍事施設に限定攻撃
・北朝鮮が韓国に長距離砲や弾道ミサイルで反撃
・北朝鮮工作員による日韓での破壊活動
・中国軍の介入
(注)専門家の話などを基に作成

「万が一」を直視 危機管理の基本

「万が一の場合に備えておく」という機運はある。ただし戦争に関しては「あってはならない」との願望が強まり過ぎ、それが「まずないだろう」という予測にすり替わる願望バイアスに陥る。思考はそこで停止し、現実的に国民を守る備えが進まない展開になりがちだ。安全保障や危機管理の基本は「あつてはならない展開を直視する」ということ。大至急着手すべきこと、中長期的に取り組むべきことに分けながら、命を守る具体的な備えを急ぎたい。(編集委員 高坂哲郎)

「最も危険なのはソウルとその北部地域にいる日本人だ。北朝鮮軍が奇襲で軍事境界線を越えてソウルまで侵攻すると日本人もとらえられる。一旦そうなれば帰国はできなくなる。現段階で避難を検討した方がよい」

「次に日本本土への弾道ミサイル攻撃だ。日本を射程に収めるノドン(約2000発、移動式発射台は50基程度)がある。ただ核弾頭はノドン

「日本への弾道ミサイル攻撃に対しては、MDの強化に加え敵基地攻撃能力も持つことが必要だ。北朝鮮が日本にミサイル攻撃をしても、日本から報復を受けられないという状態が続けば、北朝鮮は攻撃をより決心しやすくなる。半島有事で日本国内が混乱すると中国軍が尖閣諸島を占拠するといったこともあり得る。脅威は北朝鮮だけではなく、日本はいかに備えたらよいでしょうか。」